

2022年度 日本工学院専門学校											
I Tスペシャリスト科											
IoT実習 3											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	春田 一郎			実務 経験	有	職種	システムエンジニア				
担当教員紹介											
「担当教員は、約 3 年間、商社に所属し L S I 開発サポート、約 4 年間、アミューズメント企業に所属し業務用システム基板の開発、約 1 0 年間、電気機器企業に所属し測定器開発を経て工場計装システムのエンジニアリング支援業務、の経験を持つ。」											
授業概要											
近年、今までインターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じてクラウドに情報を送ることで、クラウド側でAIを活用した分析などに利用したり、人を介さずモノ同士が情報のやりとりを自律連携して制御を行うなど、IoT(Internet of Things)を活用した新しいサービスが生まれている。この授業では、IoTを実現するために、モノへ組み込まれる電子部品(センサーやアクチュエータ、通信機能など)の制御方法を元に、ネットワークからアクチュエータを制御する方法や、センサーの情報をネットワークへ送る方法などを、IoT実習 1 とは別の角度から学ぶことで、新しく生まれたサービスをカタチにする手段を学ぶを目的とする。											
到達目標											
この科目ではRaspberry Piを使って、IoTやAIなどで注目されているプログラミング言語であるPythonを使った簡単なプログラムを作成できること、アクチュエータを制御するプログラムを作成できること、センサーから必要となる情報を取得できるプログラムを作成できること、ネットワークを経由してアクチュエータを制御したり、センサーから取得した情報をネットワークへ送信するプログラムを作成できることなどを通じて、IoTとして必要となるモノの制御方法の基礎となるプログラムを作成できることを目標にしている。											
授業方法											
この授業では、RaspberryPiから制御するためにブレッドボードにアクチュエータやセンサーなどの電子部品を取り付け、簡単な例題プログラムを作成しながら電子部品の制御などを学習する。適時実施する演習課題に対して、自分なりに考え、手を動かしてプログラムを作成することで電子部品の制御方法などの技術の定着を図り、電子部品を扱った簡単なプログラムを作成できるようになることを目的とする。											
成績評価方法											
試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する									
小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
成果発表	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する									
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
教科書、ノートパソコン、LANケーブル、SDカードを必ず持参すること。新しい用語の意味を理解し名称を覚えること。電子部品は壊れやすいので丁寧に扱うこと。簡単なプログラムであったとしても、必ず手を動かして実際にプログラムを作成し、プログラムの実行結果を確認すること。就活で欠席する場合は必ず事前に公欠届の承認印をもらうこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
石井ルモナ・江崎徳秀著：みんなのRaspberry Pi入門、リックテレコム、2017年出版 ※入手方法別途案内											
回数	授業計画										
第1回	環境設定 RaspberryPiを設定するための各種コマンドをノートパソコンから入力できる										
第2回	Python基礎 Pythonを使って簡単なプログラミンを作成できる										
第3回	電子工作基礎、LED制御 プログラムで指示したとおりにLEDを点灯/滅灯させることができる										
第4回	スイッチ、カメラ制御(1) スwitchのON/OFFの状態を、LEDの点灯/滅灯として表示できる										
第5回	カメラ制御(2) カメラで撮影した動画を画面に表示して確認できる										

2022年度 日本工学院専門学校	
I T スペシャリスト科	
IoT実習 3	
第6回	加速度センサー制御 加速度センサーの情報を画面に表示して確認できる
第7回	クラウド(1) センサーの情報をクラウドに送り、インターネットで確認できる
第8回	クラウド(2) センサーの情報をクラウドに送り、インターネットで確認できる